

■三浦梅園 哲学者。生涯田舎村を離れず独学で、日本人離れをした大哲学を構築した。“豊後聖人”。

みうらばいえん

火の見櫓制・1723＝ 豊後の国東郡富永村で、名望家の医者之家に生まれる。

享保大飢饉・1732＝ 9歳：

・・・・・・1733＝10歳：この頃、学問を始める。

若き日の友人で、大坂懷徳堂の中井履軒とは生涯文通をもった。

・・・・・・1738＝15歳：ごく短期間杵築藩学者綾部綱斎に学び、綱斎の四男で、のちの大坂の天文学者麻田剛立と友人になる。

🚢船出没始 1739＝16歳： 中津藩の儒臣に入門したほかはまったくの独学で、  
幼時より天地万物あらゆることに疑いを抱き、ノイローゼを発するほど苦しむ。

・・・・・・1741＝18歳：

公事方御定書1742＝19歳： 以降、西洋天文学書によって天地の形体を知る。

・・・・・・1743＝20歳：「独躰集」。

梅岩没・・・・1744＝21歳：「浦子手記」。

徳川吉宗隠居1745＝22歳：長崎へ行き、文献入手。

義経千本桜・1747＝24歳： 玖珠藩主久留島光通の招聘を受けたが辞退。

・・・・・・1750＝27歳：「東遊草」「梅園叢書」などを著す。

徳川吉宗没・1751＝28歳：この頃、\*「天地は気なり」と気づき、つづいてその天地万物に“条理”のあることを覚って、

薩摩藩工事・1753＝30歳：\*「条理探究の書」「玄語」の稿を起こす。

・・・・・・1756＝33歳：眼病を患う。凶作となり、父が出資し、また古老大家を勧誘して救済事業を行なう。 思索の資料とした中国古典、日本・中国の医書、西洋学の書(「天経或問」、「解体新書」、清の梅文鼎の天文学書など)を縦横に引用し批判した「贅語」起草。

源内物産会・1757＝34歳：「死生講」1巻を草す。

大武政治批判1759＝36歳：

大岡忠光没・1760＝37歳：父が死去。 「敢語」起稿。

・・・・・・1762＝39歳：「名字私議」1巻を作る。

・・・・・・1763＝40歳：寺島氏の娘つなと結婚。4年を費し人倫哲学の「敢語」1巻成る。

加賀千代句集1764＝41歳：「身生饒課」成る。長男黄鶴が誕生。

久留米藩工事1768＝45歳：

・・・・・・1770＝47歳：母が死去。

田沼意次老中1772＝49歳：

大原騷動・・・・1773＝50歳： 「梅園読法」1巻、経済論として有名な「価原」1巻、「孤節」2巻成る。

黄表紙始・・・・1775＝52歳：\*ついに「玄語」8巻を完成した。

以後、没するまで毎年、近傍各地を小旅行。

・・・・・・1777＝54歳：

🚢船蝦夷来 1778＝55歳：「通語」1巻、「養生訓」1巻成る。「帰山録」2巻を著わす。

・・・・・・1781＝58歳：小倉・中津に旅行。この旅行中の詩集「春遊草」1巻を作る。 久留米藩主、小倉藩主の招聘の意を聞くが、ともに謝す。

蘭学階梯・・・・1783＝60歳：妻が死去。「愉婉録」2巻成る。「寓意」を完成。

田沼意次失脚1786＝63歳： 藩主の内命により政治治世に関する意見書「丙午封事」1巻を上呈。3回召され、大夫の礼遇を受く。「梅園詩集」2巻を作る。漢詩概論として中国にも比肩するものなしといわれる「詩轍」6巻を作る。

初の横綱・・・・1789＝66歳：\*(「玄語」「敢語」と合わせて“梅園三語”，すべて漢文)「贅語」14巻ついに成り、没した。